

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	13	実施計画番号	1	
事務事業名	環境保全団体への支援		事業開始年度	昭和58年
担当課名	まちづくり支援課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業	
背景や経緯等	自然保護に対する市民への啓発と、名水保全対策協議会、奥入瀬川クリーン対策協議会が実施する保全活動、啓発活動への指導、支援を行う。 また、十和田湖の水質改善のために、国・県・関係機関等と連携しながら、調査及び保全活動を行うとともに、十和田湖水質改善推進協議会の活動を支援する。			
事務事業の目的	十和田湖や奥入瀬溪流など、恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐために、自然保護に対する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努める。			
実施状況	①名水五ヶ所の水質検査 ②奥入瀬川クリーン対策協議会によるクリーン作戦の実施 ③十和田湖の水質改善及び保全活動			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
	人件費(千円)	360	360	360
正職員以外(選択!)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
うち一般財源	480	730	291
うち国県支出金	480	730	291
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	①名水五ヶ所の水質検査				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	水質検査を行った名水	箇所	5	5	0	
	活動指標名②	③奥入瀬川クリーン作戦参加者				
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
	参加者数	人	608	556	1,000	
成果指標	成果指標名①	①名水五ヶ所の水質検査				
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	水質検査を行った名水	箇所	目標値	5	5	0
			実績値	5	5	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	参加者数	人	目標値	1,000	1,000	1,000
			実績値	608	556	850
			達成度(%)	61%	56%	85%

- 名水五ヶ所
①白上
②沼袋
③梅
④晴山
⑤八甲田清水

昨年のシートでは「十和田湖1回水質検査」とありましたが、「水質調査」は市の事業として行ったもので、補助事業では実施していませんので削除しました。

十和田市事務事業評価シート

整理No	13
計画No	1

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">自然保護に関する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努めることを目的としているため、妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	自然保護に関する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努めることを目的としているため、妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
自然保護に関する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努めることを目的としているため、妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">クリーン運動参加者数は目標値に到達していないものの、増加傾向にある。名水の水质検査については、飲用に適することを確認できているため事業の有効性が確認されている。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	クリーン運動参加者数は目標値に到達していないものの、増加傾向にある。名水の水质検査については、飲用に適することを確認できているため事業の有効性が確認されている。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	クリーン運動参加者数は目標値に到達していないものの、増加傾向にある。名水の水质検査については、飲用に適することを確認できているため事業の有効性が確認されている。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">適正な事業に対する交付であることからコスト削減になじまない。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	適正な事業に対する交付であることからコスト削減になじまない。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	適正な事業に対する交付であることからコスト削減になじまない。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">自然保護に関する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努めることを目的としている事業のため、受益者負担適正化の検討になじまない。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	自然保護に関する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努めることを目的としている事業のため、受益者負担適正化の検討になじまない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
自然保護に関する意識の高揚を図り、自然環境の保全に努めることを目的としている事業のため、受益者負担適正化の検討になじまない。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					18 / 20	改善の余地	2 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由
自然環境保全は大きな課題であり、関係団体と協議しながら、常により高い効果を求めていかなければならない。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
関係団体への支援を継続するとともに、より高い効果を得られる手法を検討しながら、自然環境保全活動の啓発に努める。